

立場らびっと保育園における 施設自己評価 令和7年度

作成：2026年4月  
 保育責任者 小林 奈美

	評価項目	総評(意見・改善策)
保育計画に関する評価	保育目標について	全体的な計画を職員全員が理解して保育にいかすことは今後の課題である。理解を深められるような取り組みを各々に促すことに加え、園内研修などの機会を設け全体へ向けて発信していくことにも次年度は取り組んでいきたい。 保育目標については子どもの実態にそった内容となるよう配慮した。子どものありのままの姿を把握した上で必要なかわりや援助、目標を設定するよう心がけた。毎月のクラス会議ではクラス全体や個々についてきめ細やかに振り返りを行い、次月の目標を立てることを継続して行った。また共通認識をもって保育ができるよう、会議以外でも必要時には話し合う時間を設けた。
	保育について	子ども一人ひとりの最善の利益を考慮したかわりを心がけ、子どもにとってどうかという視点をぶらさずに保育を行った。日々の活動の中で子どもが自分で選択し、保育者はそれを受け入れ、時にはじっくり待つことができるように、ゆとりをもって時間を設定したり他クラスと連携したりして保育を行った。 安心、安定した園生活を保障することはもちろん、子どもが自らやってみようと思えるようなかわりや主体的に活動できるような保育にも引き続き心がけた。保育の中で疑問に思うことがあれば積極的に発信し、より良い関わりとなるよう保育者間でのコミュニケーションも大切にされた。 子どもが戸外でのびのびと体を動かして遊び、お腹が空き、よく食べよく眠り、人間らしい豊かな生活が営めるよう、天気の良い日は積極的に戸外へ出かけた。戸外で遊ぶ時間を十分に設けられるよう1日の活動内容や時間も工夫しながら保育を行った。
	行事について	子どもが季節や日本の伝統に触れ、知る機会となるよう工夫して行事を行った。当日の動きなどを職員に周知した上で行事を行うことが難しいこともあったので、今後は各々がより意識して取り組んでいきたい。 子どもが安全に楽しく参加できるよう、椅子や職員の配置にも十分に配慮した。保護者参加行事については年間行事で案内はしているが、それに加えて詳細の案内も早め(約1ヶ月前)に行い、仕事の調整等がしやすいよう配慮した。 保護者参加行事であっても見栄えが優先ではなく、あくまでも子どもが楽しんで参加することができるという軸を大切に企画・実行した。
保育計画を支える諸条件に関する評価	分掌・体制	常に変化がある現場の中で状況をよく見て自分の役割を考え、活発に声をかけ合いながら一人ひとりが行動できていた。状況によっては他クラスや責任者に応援を頼むなど子どもを中心に考え行動できていた。保育責任者は指示を出すだけではなく、どうしたいのか、どうしたら良いと思うかを尋ね、職員一人ひとりの思いや考えを尊重するよう努めた。また、出された意見に対してはどんな内容であってもそのままにせず、なるべく早く対応することを心がけた。どの職員に対しても常に平等に接することを大切にされた。
	運営	運営責任者との面談、年3回の保育責任者(保育部門)・管理責任者(給食部門)との面談、年度末に保育責任者と管理責任者による三者面談を実施した。 職員一人ひとりの目標や現状を共有し、専門職としての成長をサポートできるような体制作りを心がけた。 また働く意欲の向上に繋がるよう多角的に一人ひとりを捉え、取り組みを認めたり寄り添ったりしていつも安心できるよう配慮した。 保育の仕事に従事する者としての責任や自覚をもつことの重要性について、職員がそれに気づき学ぶ意欲がもてるような働きかけや園内研修を行った。
	年齢別・クラス運営	同じクラスでも月齢や個々の成長発達によって活動内容を考慮し、時と場合によっては他クラスと過ごしたり活動内容を分けたりと、個々が活動しやすく楽しく過ごせるよう配慮した。 他クラスと交流する際は、担任同士できめ細やかな打ち合わせを行い、安全に楽しく過ごせるよう十分に配慮した。 他クラスの状況を積極的に知ろうとする意識をもち、クラスを超えて園全体で子どもたちを把握し保育する大切さに気付き実践することができていた。
	保健・安全指導	CO2測定器の値に基づいて適宜室内の換気、玩具や室内の消毒を毎日実施した。 また、園内研修を通して嘔吐処理・おむつ交換の実践やこどもの体調管理について学ぶ機会を設け職員全体の感染予防に対する意識や技術の向上を目指した。
	園内外研究・研修	職員それぞれの段階に合った研修を受講できるように調整をした。 園内研修は、その時期に実際の保育提供の上で必要な内容を責任者間で話し合い選択し職員全員に対して実施。 外部委託での乳幼児応急手当研修も例年通り職員全員が受講し、定期的に緊急時の対応について学ぶ機会を設けた。
	情報について	引き続き各帳簿を部門ごとに分けてナンバリングし管理を行った。次年度への意向もスムーズに行えた。個人情報の管理については引き続き施設できる場所に安全に保管をし漏洩防止に努めた。整理整頓を行い、不必要なものは適切に処理(シュレッダー)した。
	施設・設備	「らびっと広場」を活用し(夏の暑い時期以外)、近隣公園等と合わせて戸外活動を行った。 砂場や滑り台、ブランコなど、乳幼児に適した固定遊具で子どもは喜んで安全に遊ぶことができていた。 水遊びの時期にはプレイルームの庭を活用した。日よけネットやミストを設置する事でより涼しく快適に過ごせるよう工夫した。 使用中で改良した方がよい点などがあつた場合はその都度話し合い、より快適な環境となるよう園全体で取り組むことができた。 月1回の安全点検(らびっと広場・プレイルーム・プレイルーム庭)、月2回の安全点検(避難車・ベビーカー・椅子・テーブル・ロッカー)を行い、不備があつた場合にはすぐに報告し修繕した。 安全が確認されるまでは使用中止にし、使用再開する時は必ずダブルチェックを行った。雑草等の処理も定期的に行つた。

	施設間交流連携	<p>連携園（3施設）との2歳児クラス交流、姉妹園との2歳児クラス交流を定期的に行った。連携園とは接続時に引継ぎを実施することができた（毎年継続して行っている）。連携園（いづみ幼稚園）の運動会やお芋ほりにも参加することができた。姉妹園の夏祭りにも参加した。</p> <p>当園の秋祭りに姉妹園を招待することもできた。</p> <p>毎年少しずつ交流機会が増えており、各園とも連絡を取り合うことも増えている。今後も引き続き交流を続けていきたい。</p>
	家庭・地域との連帯	<p>園での様子を保護者に詳しく伝えることができるよう、日々降園時にゆっくり話す時間を確保できるような人員配置に努めた。</p> <p>個人面談は9月に1度開催し、その他必要時には時間を確保し面談を実施した。</p> <p>保護者への様々な伝達や連絡手段として、内容や保護者の就労等も考慮した上で電話・書面・メールを使い分けて行った。</p> <p>また保護者が分かりやすいよう案内をするように努めた。</p> <p>地域との交流は具体的にはまだ実施できていないが、今後秋祭りを地域に開放した行事にすべく年々前進しているところである。</p>
	情報発信	<p>例年通り、園だより・給食だよりを発行。今年度よりほげんだよりの発行も開始した。内容は読みやすく、その時期に合ったものとなるように配慮した。写真販売については子どもの様々な表情や様子が伝わるように、多数アップロードし見やすいように項目を細かく分ける工夫をした。また、感染症関連の情報発信については、一斉メールを活用しリアルタイムで保護者へ伝達出来るよう配慮した。</p>
給食関係	衛生管理について	<p>調理室内のこまめな掃除・消毒を行い、常に清潔な状態を保つことができた。</p> <p>健康管理についても、点検表や手洗い等基本的な対策を徹底した。</p> <p>感染症発生時は普段の食器は使わず、紙皿等、保育部門と協力し細心の注意を払いながら衛生管理を行った。</p> <p>幼児用食器で破損している物があり、新しいのに取り換えた事で、清潔で安全な食器を子どもに提供できた。</p> <p>以前あったマニュアルを改定し、今現在にあるマニュアルで職員同士の共通理解を深めることが出来た。</p>
	調理内容について	<p>全員が同じ調理ができるよう、以前あったマニュアルを改定し、職員同士の共通理解を深めることが出来た。</p> <p>新しいメニューを取り入れることで気付く改善点もあり来年度に活かしていきたい。</p>
	食育について	<p>毎日の子ども、クラスの状況を実際に給食職員の目で確認し成長発達にあった食育を計画的に進めることができた。また、毎月クラス担任と会議を行うことにより情報共有を行い、食育に繋がった。</p> <p>年度前半は、職員の入替わりがあり、食育活動が出来なかったが、年度後半からは、食育活動を再開し成長発達にあった内容にするように努めた。</p>
	健康管理について	<p>子ども達の身長・体重という数値に加え日々の保育園での生活から汲み取れる情報を交えて支援を行うことができた。</p> <p>栄養バランスに加え残食が少なくなるよう、振り返りを行い、子どもたちの栄養が満たされるよう努力を行った。</p>
事務	事務管理について	<p>個人情報の管理については引き続き施設できる場所に安全に保管をし漏洩防止に努めた。</p> <p>書類をナンバリングして管理をすることで業務の効率化を図ることが出来ている。</p> <p>入れ替わりがあってもスムーズに業務を移行できるよう、引き継ぎ書、マニュアルを整備した。</p>